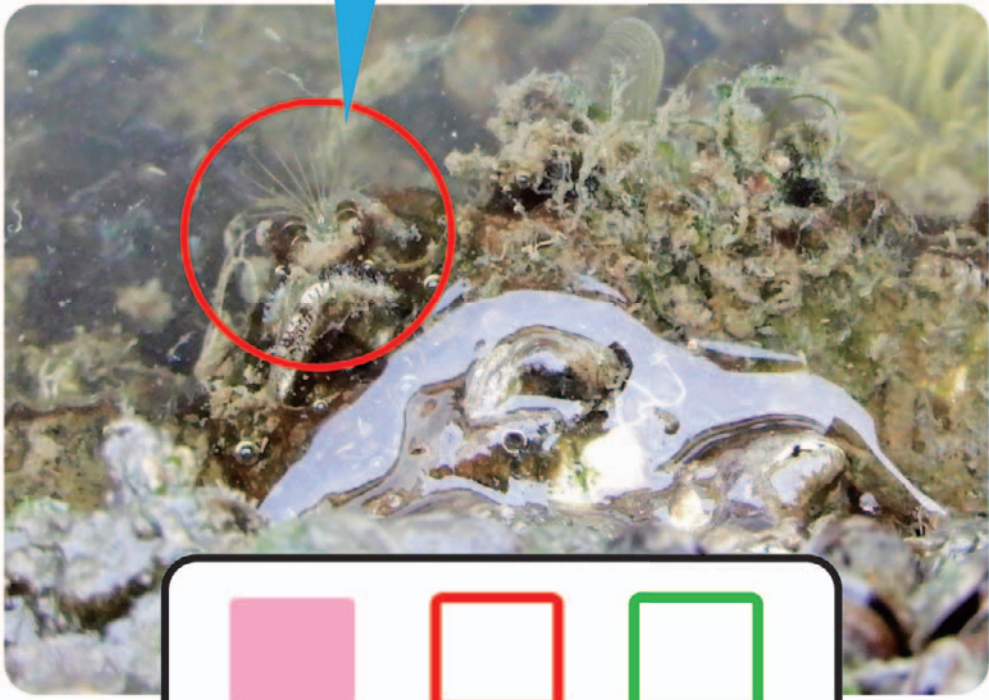


中・下流域の生物③



堤防にはボク達フジツボや貝も暮らしているよ。海に近いし、川幅が広く、水深もあるから海水の影響が大きいのかな。
名古屋港水族館の近くでは、色々な生き物がやって来ているみたいだから、他の仲間も堀川に遊びにきているかもね。



アベハゼ

汽水・海水魚 雑食性。マハゼと比べ頭が丸く、目が左右に離れている。泥底を好み、汚濁に強い。

カダヤシ

北米原産 メダカと違い尾びれが角張っていない。汚れや塩分にも強く上流から下流まで全域に生息する。

カレイ (稚魚)

汽水・海水魚 動物食性。普通は水深30~100mの沿岸の砂泥地に生息するが、湾内や河口域にも入る。

コノシロ

写真提供:名古屋港水族館
汽水・海水魚 雑食性(プランクトン) 夏期に湾内や河口域に入るが、冬期に深みへ移動する。

スズキ

汽水・海水魚 動物食性。夏期に湾内や河口域にも入るが、多くは冬期に湾外の深みへ移動する。

~2000年2月の珍事!~
1815年(文化12年)に「熱田の海」で捕獲された記録以来、確認されなかった「シャチ」が、185年ぶりに白鳥橋周辺まで遊びに来ました。
『海へお帰り作戦』により、多くの市民に見送られ、海に帰って行きました。



ボラ

汽水・海水魚 雑食性。海で孵化した仔魚は、春には中・下流の水面近くを泳ぎ、時折 水面上を飛び跳ねる。

マハゼ

汽水・海水魚 藻類・底生生物を食べる雑食性。堀川では春~夏に中・下流域で過ごし、秋には海に移る。

